

現代高校生の入浴観

○上山 敬子(宇都宮海星女子学院) 尾崎沙和子(女子栄養大学)

- <目的> 一般に日本人は風呂好きな国民と言われているが、この風呂好きはどのようにして形成されるのだろうか。本研究は受験勉強や部活動などに忙しい高校生に焦点を当て、アンケートにより入浴の実態を調べ、現代高校生の入浴観を把握する。
- <方法> 調査対象：埼玉県内の高校生男女各110名（回収率100%）。調査内容：* 幼少時の体験 * 風呂での過ごし方 * 風呂に対する感情等。調査期間：平成 6年 9～10 月
- <結果> 浴室の保有率：男女共100%。「風呂が好き」は男子は54%、女子は75%であったが、毎日の入浴率は男子96%、女子100%と高率であった。平均入浴時間は男子21.2分、女子37.2分と女子が16分ほど長い。一人で入り始めた年齢は男子8歳前後、女子9歳前後、と性差がみられる。幼少時の入浴の思い出は数遊び、家族との会話、入浴時のマナー等で、その内容はさまざまであった。風呂での過ごし方は、歌をうたう、ぼーとする、寝る、入浴剤を楽しむ、マッサージをする等、個々に入浴を楽しんでいる。しかしまた4人に1人は、本人あるいは家族が事故を体験している。風呂に対する希望：広さ、設備、美観、娯楽、安全に関するもの等多岐にわたる。また温泉や健康ランドへの関心も高い。
- 以上から、現代の高校生も風呂に対しては概ねプラス志向であり、様々な希望を抱きながら、入浴をのんびりと楽しんでいる様子がうかがえた。